

第一回

神は聖書を保持しておられるのか

I. 序

- しばしば忘れられる、摂理による聖書の保持の教理
- 信仰者の聖書に対する霊的「本能」と知的「探索」について
- 書かれた神のみことば：二つの「課題」
 - 翻訳聖書の違い（どれが正しいか）
 - 聖書の「原典」は一つも残っていない
- では、accurate（「守られた、大切に管理された」）聖書は（どこに）あるか
- もう一つの視点から本題を考える：聖書に関する、神の御わざの教理
 - 靈感
 - 照明
 - その間（溝）のみわざは？
- 講座のスケジュール
 1. 今日 神は聖書を保持しておられるのか
 2. 10月9日 どのように神は聖書を保持しておられるのか
 3. 10月16日 どこに神は聖書を保持しておられるのか
 4. 10月23日 なぜ神は聖書を保持しておられるのか

II. よくある（間違った）答え

- いいえ、神による聖書の保持はない
 - イスラム教の立場
 - 聖書の一部が取り除かれたという、「ダ・ヴィンチ・コード」の立場
 - 写字生によるテキスト変更のため、オリジナルが失われているという立場
 - テキストが自然のプロセスを通して腐敗したという立場、など

III. 保持について：聖書自体は何と言っているか

- 詩篇 119:160
- イザヤ 40:8、第一ペテロ 1:24-25
- マタイ 5:18
 - 古代ヘブル語 (palaeo-Hebrew) のヨッド (一点) [ז]

IV. 保持について：組織神学は何と言っているか

- ウェストミンスター信仰告白 1.8 (1647 年)

(昔の神の民の国語であった) ヘブル語の旧約聖書と、(しるされた当時、最も一般的に諸国民に知られていた) ギリシャ語の新約聖書とは、神によって直接靈感され、神の独特な配慮と摂理によって、あらゆる時代に純粹に保たれたので、確実である。それで、すべての宗教論争において、教会は最終的にはこれらに訴えるべきである。

 - 保持は「本物の (authentic) 」聖書に適用される
 - 保持は、神の「摂理」による
 - 保持と靈感は切り離せない
 - ⇒ 保持の教理的「必然性」

V. 保持について：現存するテキストは何と「言っているか」

- 実際は雑然とした状態...
- では、帰納的推論は、演繹的推論の変更を強いるか
 - そうではない。しかし...
- 「現場」で何が起きているのかを説明するために、別の問いを考える必要がある...
 - どのように神は聖書を保持しておられるのか

VI. 質疑応答